

平成27年度教育活動等に対する学校評価書(自己評価結果書)

学校法人二葉学園 葛飾二葉幼稚園

1. 本園の教育目標

「自立と思いやりの心」

- 自ら考え、自ら課題にぶつかり、自ら解決できる子
遊びや保育を通して、知的好奇心や探究心、興味、関心、意欲を引き出し、一人一人の段階に合わせて生きる力に結びつける。
- 自らを律しつつ、他者を思いやれる子
友だちが好き、先生が好き、幼稚園が好きという思いを通して、暖かい風土や雰囲気の中で他者を好きになることで、自分を律しつつ、一人でも遊べ、みんなとでも遊べることを身につけ、さまざまな場面でも他者を思いやり、自分の意思を選択できる力に結びつける。
- 健康で、がまん強いたくましい子
物の豊かさが心や身体に及ぼす影響を踏まえ、幼児期に必要な運動による身体能力の向上、心の発達、神経機能の発達を目指し、心身ともに健康な子どもに育てる

2. 本年度の重点目標

本園は、平成27年4月に施行された子ども子育て支援新制度において、幼保連携型認定こども園に移行した。今まで培ってきた本園の幼児教育の重要性を再認識するとともに、保育の必要な子ども、家庭への保育・子育て支援についても、認識を深めるとともに実行する。

また学校教育に加えて、児童福祉を含めた教育・保育、行政や地域との連携等、多方面において新制度に対応することが最重要課題とする。

3. 教職員による、評価項目に対する自己評価(平成28年2月下旬～3月上旬実施)

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
① 保育の計画性	認定こども園教育要領として、年間計画・月案・週案・日案に沿って、細かい計画を立てつつ保育を実践した。 本年度は昨年度までにはなかった長時間児に対しての保育、0, 1, 2歳児の保育を実践したが、質の向上において、0, 1, 2歳児から3, 4, 5歳児への保育計画の連携、また3, 4, 5歳児において教育時間と保育時間の保育計画の連携には課題が残る。	C
② 保育の在り方、乳・幼児への対応	昨年同様、子どもたちの興味関心を引き出し、自発的な活動、意識が持てるよう保育内容・環境を重視して活動を進めた。 生活の中で、子ども同士がさまざまな関わりを持ち、自分たちで解決しようとする気持ちを大切に、達成感を味わわせることを主なねらいとしながら、ねらいを達成できたかを適宜反省しながら翌日以降に生かせるようにした。	C

	<p>クラス担任だけが一人でクラス全員を見るのではなく、全保育者で全員の子どもを一人ひとり見つめ、良い所を認め伸ばせるように、子どもの小さな変化でも保育者同士で連絡し合うように努めた。</p> <p>長時間保育においては職員間の伝達を含めて保育の連携の在り方に課題が残る。</p>	
③ 教師としての 資質、能力・良 識・適正	<p>子どもに接する上では、保育者自身の人間性が重要であるという認識の元、日頃から読書・新聞を読む・芸術に触れるといった感性を豊かにすることを意識して実践。若い保育者をベテランが指導し、アドバイスを与えて能力を引き出す体制が少しずつではあるが出来ているが、課題もある。</p> <p>また、認定こども園の職員として、さまざまな面での意識改革が必要である。</p>	C
④ 保護者への対 応	<p>子どもたちの園での様子は、お迎え時や電話連絡、また保護者との面談等にて連絡を密に取るように心掛けた。直接連絡が必要な事項は、保育終了後に電話連絡をしたり直接顔を見て会話をしたりした。</p> <p>今年度から長時間児の保護者がいることで、連絡事項は、早めの対応を心掛けたが、課題が残っている。</p>	C
⑤ 地域の自然や 社会とのかか わり	<p>園が都内に位置している関係から、自然との関わりに乏しくなってしまうがちではあるが、6年前に行った自然豊かな園庭整備が年を追うごとに徐々に実現されてきており、虫取り・木の実拾いなどの自然の中で遊ぶ計画を立てて実行した。</p> <p>運動会やお遊戯会では地域の方たちにご来園いただき、子どもたちの様子、園の取り組みなどについて見ていただけた。町会の行事である盆踊りやお神輿などにも積極的に参加し交流を持つことができた。</p>	A
⑥ 子育て支援	<p>子育て広場を定期的で開催し、育児相談も含め、地域の子育て家庭への支援を行った。認定こども園初年度としての目標は概ね達成できた。</p> <p>今後はさらに情報発信、講演等の開催も視野に入れ、子育てに対する啓もう活動にも力を入れていく。</p>	B
⑦ 研修	<p>保育研修の他、社会人研修は例年同様行った。また、認定こども園になり、初めて体験する仕事が多いため、一年間を通してそのための研修、とくに安全管理を第一に考えた研修に力を入れた。まだ課題が残っているが、こども園初年度としては概ね回数、内容ともに達成できた。今後は時間の確保が大きな課題だが、保育者全員で問題意識を持っていけるようにする。</p>	B

※自己評価結果の表示方法

A…十分達成された

B…達成された

C…取り組んだが達成が十分ではない

D…取り組みが不十分であった

4. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

従来の教育時間としての、子どもの『自立と思いやりの心』の育成を目指すための目標に関しては今まで通り実施してきている。その成果として、園児募集（1号認定こども）に関しては一応の結果を得ることができた。

しかしながら、27年度に、子ども子育て支援新制度の施行に伴い移行した幼保連携型認定こども園として課題にあがった保育計画、職員の意識、保護者対応等の課題を引き続き次年度の課題とし、質の向上を目指す。

地域の子育て拠点として1年間実践してきたが、今後はより内容を充実し、地域にとってより存在感のある子育て支援施設を目指す。

28年度も各領域の目標とねらいを全職員での共通理解を深め合い、園目標の具現を目指して実践していく。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。